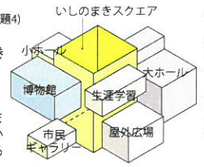
新しい複合文化施設では、復興する石巻の文化芸術の拠点として、多岐にわたる市民の活動を受け容れていくことが求められます。**屋内広場「いしのまきスクエア」**を中心に配し、そこから四方に拡張していく空間構成として、異なる性格・規模の集会やイベントに**フレキシブルに対応**しつつ、展示や練習といった日常の**活動風景がいきいきと見えてくる**施設を提案します。

■環状のゾーニング　課題4)

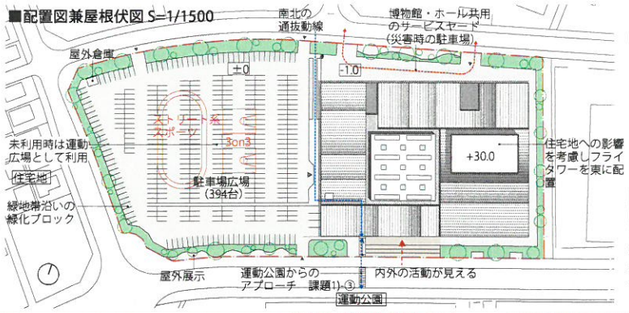
屋内広場「いしのまきスクエア」を中心に配し、その周囲に環状に各部門をゾーニングします。明快でわかりやすく、管理も容易になると同時に、複合文化施設として部門をまたぐ**相乗効果**を生みだしていきます。

■いしのまきスクエア　課題4)

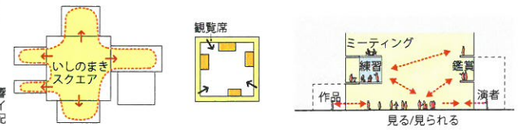
いしのまきスクエアは「創造」「交流」「絆」の場として石巻復興の精神的支柱となります。諸室が枝葉のように接続し、**様々な文化芸術活動を支える「幹」**としての役割を果たします。各部門へのアクセスに用いられ、常に賑わいの感じられる場所となります。



■配置図兼屋根伏図 S=1/500



□アクティビティの拡がり　□求心性　□アクティビティの可視化



■まわりみち　課題2)-②　課題3)-⑥

いしのまきスクエアに接続する屋内外の空間は、**展示・上演の拡張領域**として用いられます。上階では、ロの字形の**回遊動線「まわりみち」**が巡り、点在する練習室・研修室を結ぶとともに、スクエアを取り囲む花道・観覧スペースとなります。拡張性と求心性を併せ持つ空間です。市民のアクティビティを可視化し、誰もが観客であり演者となる、**市民が主役**のホールです。

■石巻TBT、運動公園との連携　課題1)-①

高速道路からのアクセスを活かし、ホール・博物館機能に加えて、TBTと連携した産業見本市も可能な多機能イベントホールとします。

山並みを背景とした特徴的なスカイラインが、市街地からも視認できるランドマークとなります。

周辺の緑地帯と合わせた緑のネットワークを形成します。

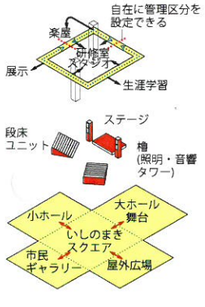
駐車場と総合運動公園と連動した多様なイベントに対応する屋外空間とします。

■可能性の空間　課題2)-①

龍安寺の知足のつくばいのように、中央の領域が他の領域と組み合わさることで、様々な可能性が生み出されます。複合施設の諸機能が連携して、創造性に満ちた広場空間となります。

■フレキシビリティ　課題2)-③

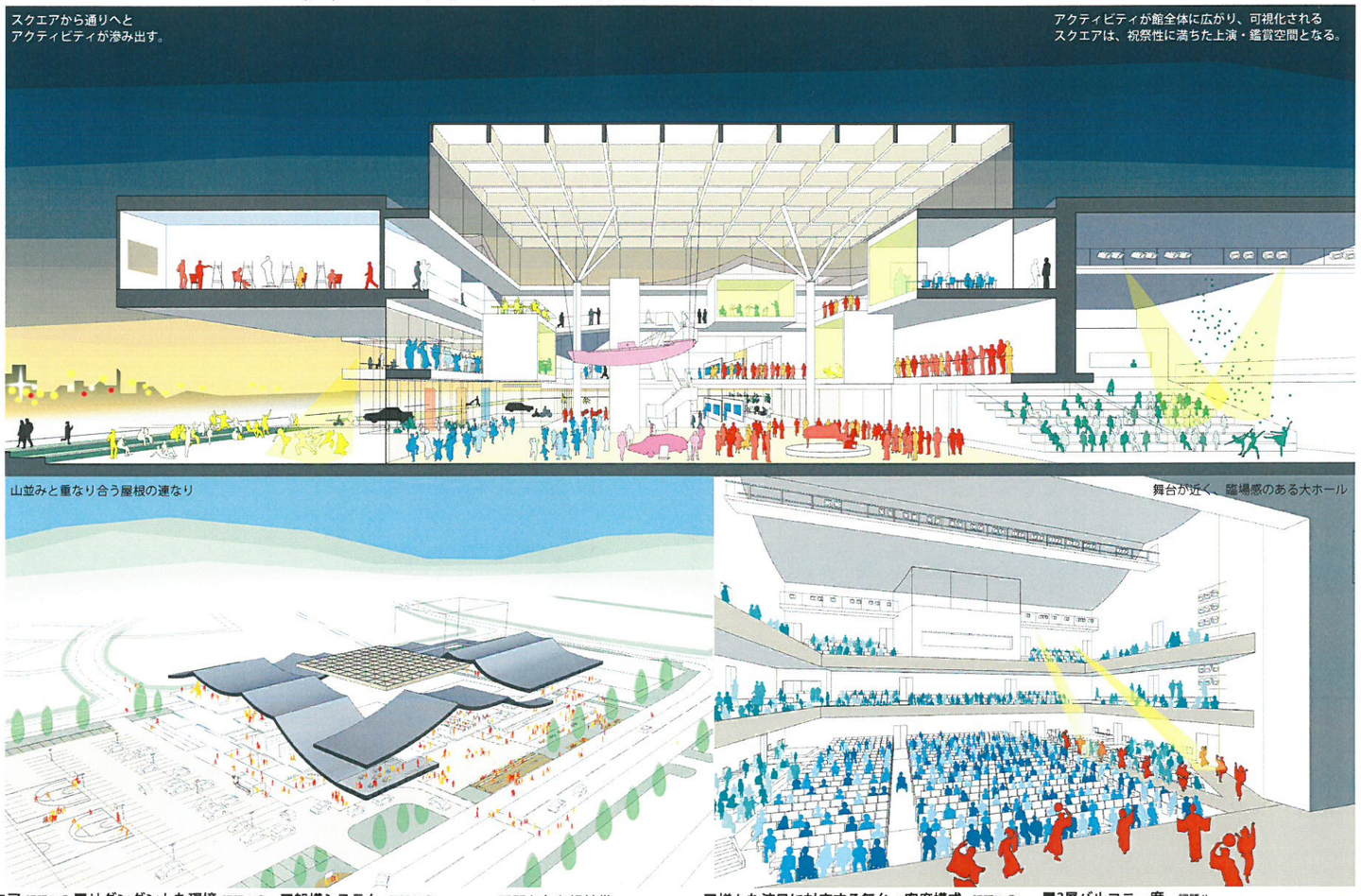
100×70mの矩形平面に、フレキシビリティを担保するための動線・領域とデバイスを用意します。



□まわりみち
館全体の動線のハブとなる

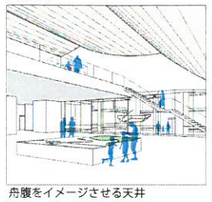
□可動デバイス
内外での様々な活動をサポートする

□可能性の空間
様々な活動に対応するフレキシブルな空間



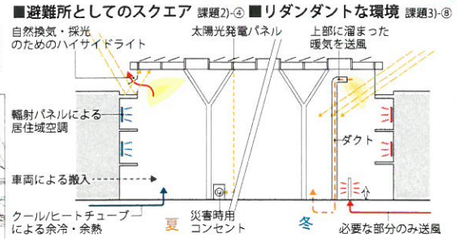
■拡がる展示空間　課題3)-④

「まわりみち」から常設展示室内をうかがえるようにして、来訪者に博物館の存在をアピールしていきます。



■避難所としてのスクエア　課題2)-④

自然換気・採光のためのハイサイドライト



災害時に避難所となることを想定し、スクエアへの物資の搬入経路を確保します。

自然エネルギーを活用し災害時にも最低限の環境を担保します。

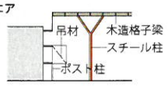
居住域空調を行うことで省エネルギー化を図ります。

■リダンダントな環境　課題3)-⑧

■架構システム　課題3)-⑦

主体構造はRCとし、スクエア架構はS造柱＋木造格子梁とします。周辺部の屋根はPCaとし、品質確保、型枠削減を図ります。杭は、支持地盤の傾斜に適した支持杭工法とします。

□スクエア

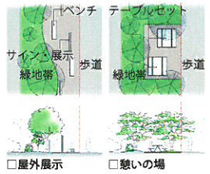


□周辺部

PCa部材を現場で緊張一体化

■開かれた緑地帯　課題1)-②

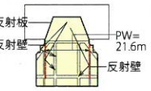
敷地外周部の緑地帯に、ベンチやテーブルセットを配し、地域の散歩道として、街と施設の関係性を形作ります。さらに博物館と連携した屋外展示スペースとして位置づけます。



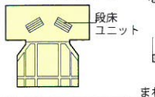
□屋外展示　□憩いの場

■様々な演目に対応する舞台・客席構成　課題3)-①

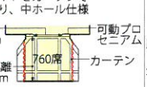
□コンサート
PW21.6mとし、大編成のオーケストラにも対応



□アリーナ形式
小ホールの段床ユニットでアリーナ形式とする



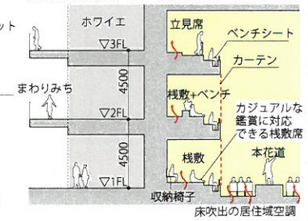
□演劇
両サイドをカーテンで仕切り、中ホール仕様



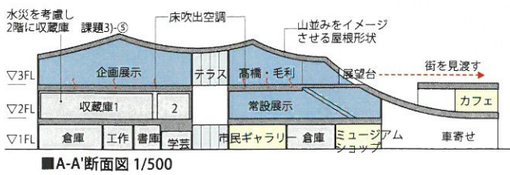
□伝統芸能(和物)
本花道を設置して桟敷席で取り囲む

■3層バルコニー席　課題4)

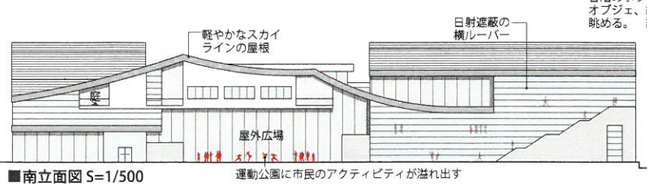
階高をコンパクトにして、三方を3層のバルコニー席で囲み、囲まれ感を演出します。形式の異なる座席を設け、様々な鑑賞形態に対応します。



床吹出の居住域空調

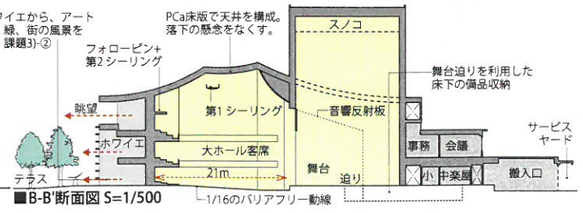


■A-A'断面図 1/500

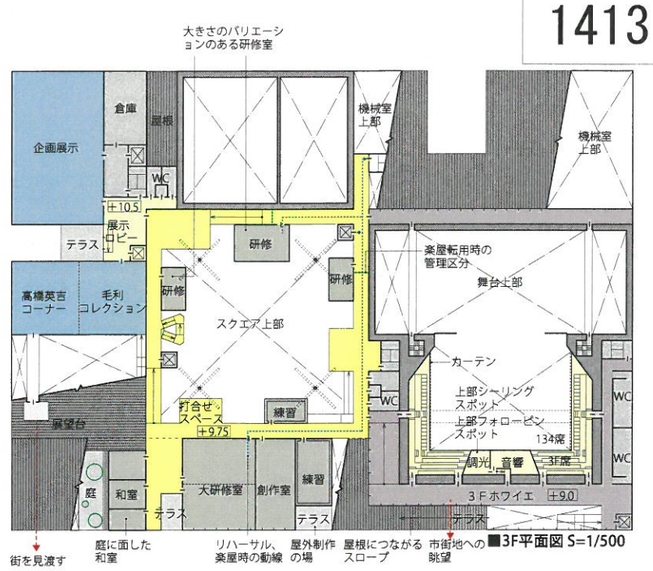


■南立面図 S=1/500

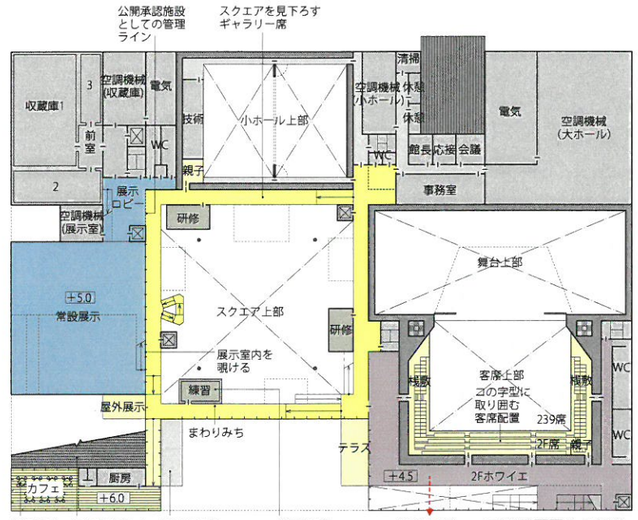
運動公園に市民のアクティビティが溢れ出す



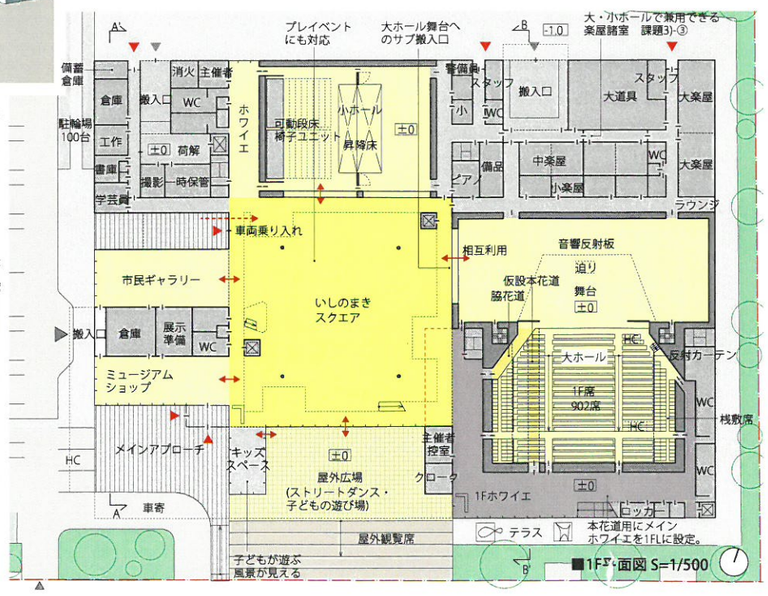
■B-B'断面図 S=1/500



■3F平面図 S=1/500



■2F平面図 S=1/500



■1F平面図 S=1/500